

琉球弧世界遺産学会公開講座2026
～ 登録5周年を迎えた沖縄奄美の世界自然遺産の今とこれからの考える ～
開催要項

- ◆ 日時 2026年7月11日(土) 14:30～17:00 (開場:14:00)
- ◆ 会場 沖縄県立図書館3階ホール
- ◆ 主催 琉球弧世界遺産学会(通称:琉球弧世界遺産フォーラム)
- ◆ 後援 環境省沖縄奄美自然環境事務所・沖縄県/沖縄タイムス・琉球新報(予定)
- ◆ 支援 沖縄美ら島JCBカード
- ◆ 参加申し込み 不要
- ◆ プログラム
 - 趣旨説明 (5分)
 - 講演3題(60分)
 - ・「知っておきたい世界遺産のこれまでとこれから」
花井 正光(琉球弧世界遺産学会前代表)
 - ・「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産登録5年を迎えて」
大林 圭司(環境省沖縄奄美自然環境事務所所長)
 - ・「世界遺産 森の全ての恵みを地域が享受して守り活かす」
山川 安雄((株)やんばるリンクス/国頭村議会議員)
 - 休憩(15分)
 - パネル討論(70分)
 - テーマ:世界遺産の枠組みと地域遺産の保存活用について考える
 - 登壇者:講演者3名
當眞 嗣一(グスク研究所主宰/琉球弧世界遺産学会理事)
 - 司会:濱口 寿夫(中城村護佐丸歴史資料図書館館長/琉球弧世界遺産学会代表)

趣旨

登録5周年を迎えた沖縄奄美の世界自然遺産、「奄美、徳之島、沖縄島北部及び西表島」。この間、登録地が存在する各島で世界遺産の普遍的価値を末永く継承するためのさまざまな事業が取り組まれてきた。外来種対策で世界的な快挙を達成した奄美大島のマングース根絶事業、自然保護のみならず地域振興にも寄与するエコツーリズムの運営体制の整備など、折々の報道で知らされてきてはいる。が、概して一過性で、登録資産の保存活用体制や構成資産の現状と課題、国・県・市町村の関与など関連性を整理した情報などが発信される機会は乏しい。

焼失した首里城正殿などの再建が今秋竣工する登録世界文化遺産と、5周年の節目を迎えた世界自然遺産を通じ、両世界遺産にいっそう関心が高まるに違いない。この機をとらえ、世界遺産が課題としている自然と文化の統合、コミュニティの参画、地域の伝統的知識の活用など世界的な動向と合わせて、世界遺産の現況を学び体系的な理解を助ける取り組みの展開が期待される。その一環として、沖縄奄美の世界自然遺産の現況を知り、世界遺産をめぐる動向についても学び、これからの世界遺産や地域遺産の保存活用について考える機会を提供したい。

問合せ先:

琉球弧世界遺産学会事務局(担当:濱口・花井)

電話 濱口:090-9477-2301

電話 花井:090-8454-5930